

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム潮風
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	三重県津市
記入者名 (管理者)	谷口 和子
記入日	平成 20年 10月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	心通い合う介護、笑顔あふれる暮らしを目指し、その人がその人らしく暮らせるようなオンリーワン支援を、入所者個人の尊厳保持第一とする中で、潮風の理念を基におひとり、おひとりに寄り添った関わりを大切に、日々の支援を話し合いながら実践しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入所者個人の尊厳保持を第一とする中で、心通い合う介護、笑顔あふれる暮らしを大切にしている。おひとり、おひとりの気持ちに寄り添うことで我が家にいるように、ゆったりと過ごして頂いています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	尊厳を第一に考える中で、心通い合い、笑顔があふれ、その人がその人らしく暮らしていける施設を目指していること、地域の中にこのように整備された施設が存在することを喜んで頂けるように努めたい又認知症になっても、潮風があると思っ頂ける施設を目指していきたいと思っています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	以前より管理者がこの地域で18年程生活していた経過もあり馴染みの人も多く、交流は活発である。職員もすすんで笑顔で挨拶している中で馴染みの人も多く日常的な交流となっている。この為とても安心感があり心強く感じています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方、自治会、民生委員、保育園、介護施設、病院関係者等の方々に見学や行事に来て頂いたり、こちらから出かけたりと双方の理解を深めている。地域の中での潮風を認知して戴くことで災害時等、お互いが地域力になれば努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者を取り巻く環境等について、専門的見地から自治会、民生委員、認知症をかかえる家族等へ働きかける中で、介護保険制度のしくみ、認知症についての理解など学習会を開催するなど地域の一員として又専門職として貢献するよう努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の取り組みを通じて、改めてひとつずつ確認作業を共有することにより、日常生活全般の振り返りを衣湖なう中でこのまま続けていけば良いこと、新たな取り組みが必要なことなどの問題点を見出すことが可能となる。又第三者の視点でのアドバイスや気づき等も、対人援助する上で必要なことだと考えています		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	潮風の現状を知って頂く中で、地域の一員である事への理解を深めていく、地域の中の潮風として協力させて頂けること、又協力をお願いしたいこと等を話し合い実践していく中で、よりよい施設運営を目指し、地域力となっていけるように努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に書類提出等、連絡必要のある時はできる限り窓口へ出向くようにして、その際を利用して、相談したり、アドバイスを頂いたりと交流の機会としている。特に防災に関してはセミナーに講師として来て頂きました。今後もよりよい施設運営のために連携を深めるよう努めます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状の中では、対象者はなく必要とはしていないが、しくみについては、研修等で理解しており必要に応じて対応は可能となっています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、法律の内容、課題、背景等を学習会等で随時示し、虐待しない介護の徹底を図っている。又入所者の介護リスク等を全体の問題として捉えることとし、介護ストレスが虐待に連鎖しないよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
④、理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に至るまでのプロセスの中で、ご本人、ご家族の思い、ご希望等を十分に伺い、そのひとつひとつに対してご理解頂けるように話し合いを深め、納得されてからの契約としています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情等について、認知症状としての訴えなのかどうか、じっくり傾聴し内容を充分理解するように努めている。ご家族様についても、普段からコミュニケーションを深め、言い出しやすい雰囲気を作っている。合わせて玄関入り口に苦情受付箱を設置、行政への連絡方法についても掲げています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、立替金を精算、支払いに来て頂いている。その際を利用して、日々の生活の様子や健康状態等について報告したり、要望を聞かせていただくなどコミュニケーションを深める機会としています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で、意見等出して頂きやすいような言葉がけをしている。又アンケートと称した文書にて思いを聞かせて頂いたり潮風の方針等を説明し、同意を得る中で出された意見等の実現に向けての取り組みをしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、意見交換を蜜にし、反映するようにしている。情報共有ノートを作り、その時々意見や提案、困りごとについて日常的に活用しています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	新入所者、行事、体調不良時等、その都度の状況に合わせた人員配置を実施している、待機の非常勤スタッフ、特に近隣のスタッフ等はとても協力的である。*個人のライフスタイルに合わせた勤務パターンを尊重する中で、柔軟な勤務体制への理解が得られるように努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の理解としては、特にスタッフとの相性を重視している。スタッフを含めた環境についても、入所者が混乱なく穏やかに生活できるように日々努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修を受けられるような環境を整えたいと願っているものの、現状では施設内での学習会が中心となっている。その都度必要に応じた資質向上に向けての学習会を実施しています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協議会、グループホーム協議会、介護福祉士会、認知症家族の会等に所属し、定期的及び随時に勉強会、研修会に参加している。又交流の機会としたり連携を図っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に数回、不定期な開催ではあるが、仕事を離れ食事を兼ねた交流会を実施したりする中で、気分転換を図るように努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営にあたっては、職員全員が力を合わせ、前向きに努力し、日々業務にあたっている。苦手分野ある職員には得意とする職員がサポートし、克服に向けた働きかけを行う中でモチベーションが持てるような環境作りに努めています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	よったりと傾聴する機会を幾度となく設けていく中で、信頼関係築いていくようにしている。アセスメントした情報の中からしたいこと、どう生活していきたいと思っているか等を把握、生活の方法を話し合っていく中で本人の気持ちを引き出していくようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設利用に至った苦悩について、ゆったりと傾聴する中で、不安に思っている事、求めている事を把握していく、又本音を吐き出していただけるような雰囲気をつくるようつとめている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけに捉われることなく、話の中から問題点を把握するように心掛け相談を傾聴する一方で、専門職としての見解を示し改善に向けての必要な支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族の時間の許す限り、入所前に複数回見学の手機を設け、ご本人と施設との相性を体感して頂いている。その上で入所入所へと進めていくように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、家族のように自然に生活して頂いている。日常の中での家事も出来る処は協働で行い、共に仕事をする中で人生の先輩として教えて頂く事も多く、そのような機会を通して自信の回復、又生活力の喚起になればと努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活の仕方についての方向性を示し、共有していく中でご家族の協力を得ながら支援している。入所者を中心とした交流の中で潮風を親戚のように捉えて頂いており、手作りのお菓子、お料理、季節の野菜等を頂く事も多く、温かいご家族との関わりを実感しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	潮風での暮らしぶりが、本人にとって快適と感じられ、穏やかな生活に馴染み、笑顔で過ごせるようになる事で、家族関係の修復が可能となるよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居住場所が変わっただけでも、本人にとっては混乱を招く大きな要素ある為、他の環境についてはあえてくえないように支援している。ご本人の様子、取り巻く環境等を勘案しながらではあるものの、できる限り入所までの関係は大切に努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入所者9名と職員が生活していく中での相性等を配慮しながら、自然に振舞って居られる居心地の良さを優先していません。こうする事でお互い良き話し相手、良き理解者となり、ごく自然な形で寛いで頂けるよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、入所されている施設を訪問したり、ご家族が現状報告に来られたりと利用者の近況報告等を通じて常に交流している。又不安、心配事あれば相談に乗り、解消に向けて支援するよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントした情報の中から、又ご家族の話の中から本人のしたい事、どう生活したいと思っているか等を把握、本人にとって最適な方法を引き出していけるよう努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴及び本人、ご家族からの情報により、今まで馴染んだ暮らし方を把握するように心掛け、生活に反映できるように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の過ごし方に応じた日課の中で、本人が自信を持って生活出来るよう、職員はさりげなく、側面的に支援している。その日の気分、身体状況、希望を取り入れた生活が可能となるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントした情報の中から、又ご家族の話の中から本人のしたい事、どう生活したいと思っているか等を把握、本人にとって最適な方法を引き出していけるよう努めています。職員は利用者の細かな状態に応じた支援方法の検討を図っていく中で十分に話し合いを深め、本人らしい生活の実現に向けたプランニングを考案しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援を実施していく中で効果見られない時などには、支援方法を再検討したり、身体及び精神状況等に変化生じた時には、その現状に即した介護計画が必要であり、その都度対応している。一方で、状態良好な方に関しては同一のプランで続行となる場合も多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える中で、リスク管理するための特記の記録、個々の状態に応じた細やかな援助方法を共有するための記録等を常備して活用しています。		
③. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その人がその人らしく、暮らせる、個々に合わせたオンリーワン支援を工夫しています。少人数というメリットを十分生かした柔軟な対応を大切にしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会、民生委員、保育所、医療、保健、福祉、関係者との交流を通して社会性の充実を図り、施設の安全を確保するべく地域に根ざした潮風運営を目指しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて外部のケアマネジャー、サービス提供事業者、行政との連携をとりながら必要な支援を構築するよう努めています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状の中では、協働していないものの、必要に応じて連携をとっていきたくと考えています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者、ご家族様の意向等を反映した上で、連携医〔主治医〕による隔週1回の定期往診、併行して24時間対応による随時の相談対応及び往診体制をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々のプライド、プライバシー、人格の尊重については、十分職員間で意思統一を図り、配慮した対応に努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人に寄添いながら、その時々のお思いを共感共有する中で、意志表示しやすいよう、さりげなく側面的働きかけを工夫し対応しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の過ごし方に応じた日課の中で、本人が自信を持って生活できるよう職員はさりげなく側面的な自立支援を工夫している。その日の身体状況、気分、希望を取り入れた生活が可能となるよう努めています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容 美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があればショッピングに出掛けたり等、個別に対応している。外出困難な方に対しては、身体の安楽を優先した方法を選びご家族の同意をえながら対応しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養だけに捉われるのではなく、食事が楽しみとなるよう工夫しています。家庭にいるような雰囲気の中で職員も共に食事し生活を共有しています。又一部の利用者限定されるものの準備、片付けなど家事を分担して行う中で、生活力の喚起に向けての支援に努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の好みについては、あらかじめ把握し、日々の献立やおやつに反映している等、状況に合わせて柔軟な対応をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のある方、曖昧な方を問わず自然な排泄が可能となるように特別な事情がない限り、日中はトイレを使用している。排泄パターンに応じて定期的及び随時気配、訴えに応じても対応しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間については、その日の気分、身体状況、天候等考慮しながら対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の過ごし方に応じた日課の中で、本人が自信を持って生活できるよう、又、思い、思いの過ごし方がして頂けるよう、無理な行事や日課はあえて組まずその日の状況に応じた過ごし方を優先しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活のすべての面において出来る処、出来ない処を個別に把握し個別の状態に応じた側面的な対応をしている。又、個々の能力に応じた家事を分担し行っていることが大切な利用者同士の協働の場となっています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族、ご本人の意向に合わせて対応している。お小遣い程度をご自身で管理し買物で使用される方、又自身で所持しているだけで落ち着かれている方等、様々状況の中で保管方法等を見守るなど側面的な自立支援に努めています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、ほぼ毎日の日課となっており、外出はその日の本人の希望に合わせて外出している。天候季節、体調、その日の気分を十分配慮した上での外出支援も工夫しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出支援の方法としては、個別又は少人数での対応を基本として個々に満足感が得られるように工夫しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に対応しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	地域の方、家族の方との交流は活発である。ここは、実家だからと家族の方も気軽に尋ねて下さりとても親しみがありまるで親戚のようです。それが利用者の安心感に繋がって、落ち着いた環境が可能となっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待等については、学習会等で情報を取得、申し送り等を利用し日常的に話し合い虐待、身体拘束をしないケアの実践を継続していく方針です。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉じ込めるといった鍵についての弊害は十分理解しています。しかしながら、どこの家庭でもそうしているように鍵をかけることで、侵入者を選び、利用者の安全を確保しています。個々に寄り添い、個別の対応を実施する中で落ち着いた生活を送って頂いている中では施錠の有無だけにこだわる質問に疑問を感じています。利用者の自由な行動を日常的に		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の個々の生活スタイル、生活リスクを把握した上で職員は見守り、必要な時、必要に応じた支援を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険が伴うと考えられるものについては、利用者のために触れない処、での届かない処に保管するなどの安全対策を講じています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日常業務の中で、常に話し合い、確認する中で、常に危機感を持ち業務にあたっています。学習会等で職員全員の知識、意識を高め職員の不安の克服及び事故防止の検討に努めています。個々のリスクを共有する中で事故を防止する為の対応方法を検討しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時、事故発生時の対応については日々の業務の中で状況に合わせた方法を常に確認するように努めています。内部学習だけでなく、外部の講師を招いての学習会も実施する中で、万一に備えています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時について、現状に即した避難誘導の方法について話し合い、確認するようにしている。地域の方を交えた防災教室を開催したり、自治会、民生委員の方にも潮風の現状を報告する中で、協力が得られるよう日々関わりを密にするよう努めています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体状況を把握する中で、御家族の同意をえながらマイナス面に捉われるだけでなく、持てる力を引き出しながら、生き生きとした暮らしぶりを支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	生活場面の中で、いつもと違う微妙な変化変化を察知できる視点を持ち日々関わっている。口頭だけの申し送りだけに留まらず、介護記録、情報共有ノート等にて、個々のその日の状態を把握し予防策、対応策へとつなげています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋等にて薬効、服用方法について理解、確認し認識を深めている。又日常生活の関わりの中で微妙な変化を察知する視点を持ち日々関わるように努めています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便サイクルを確認した上で、センナ茶、ヨーグルト等整腸作用ある飲食物を摂取して頂く様にし、水分摂取等についても配慮している。できる限りトイレでの排泄を基本とし排泄、必要に応じて腹部マッサージ等にて排便への働きかけに努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後にはうがい等にて残渣物を除去、朝夕の歯磨き、義歯は洗浄、定期的にミルトン消毒し、口腔内の清潔保持に努めています。個々の状態に応じた方法で必要な支援を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)